

行政視察報告書

中核市移行特別委員会行政視察	令和元年8月28日(水)～29日(木)	
視察先 及び 視察事項	・令和元年8月28日(水) 山形県山形市	1 中核市移行について ア 中核市移行の経緯(議会の対応含む)
		(ア) 中核市移行の目的、メリット
		(イ) 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		(ロ) 県との協議・調整・連携における課題
		(ハ) 移行に伴う経費と財源措置の精査
		(ニ) 市民への周知、説明に対する課題と対応(合意形成)
		イ 市の特徴的な施策について
		ウ 保健所関連施設の設置について(保健所現地視察含む)
		(ア) 設置の概要
		(イ) 既存施設(保健センター等)との一元化の対応と今後の課題
		(ロ) 関係団体との調整・対応
		(ハ) 市保健所の将来像
		(ニ) 食肉衛生検査施設設置の概要と課題
	・令和元年8月29日(木) 埼玉県川口市	1 中核市移行について ア 中核市移行の経緯(議会の対応含む)
		(ア) 中核市移行の目的、メリット
		(イ) 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		(ロ) 県との協議・調整・連携における課題
		(ハ) 移行に伴う経費と財源措置の精査
		(ニ) 市民への周知、説明に対する課題と対応(合意形成)
		イ 市の特徴的な施策について
	ウ 保健所関連施設の設置について(保健所現地視察含む)	
	(ア) 設置の概要	

		(イ) 県保健所併設における課題と対応
		(ロ) 保健センターとの一体的な業務提供と 今後の課題
		(エ) 関係団体との調整・対応
		(オ) 市保健所の将来像

川口市

概要

川口市は、埼玉県の南端に位置する県内有数の都市である。荒川を隔てて東京都に接し、江戸時代から金寿物や植木などの産業が発達、その後、住宅都市化が進み、平成23年10月11日鳩ヶ谷市と合併し、面積61.95 k m²になりました。平成29年12月、60万人を越えて、平成30年4月1日、中核市に移行した。

県内では、戸田、蕨、越谷、草加、埼玉市の各市に接していて市の大部分が都心から10～20 k m圏内に含まれます。今現在、川口市民として不満度が低く移行への意識が低かった。

(1) 市の特徴的な施策について

- ・ 貧困ビジネスに関する規制の強化、条例化する方向付け
- ・ 業務の円滑な運営のために職員の育成支援を埼玉県に依頼
- ・ 医師会、歯科医師会、薬剤師会の3師会に説明会(8月22日、189名+職員19名) 合計208名円滑化を進めるために、新庁舎建設後は、集約する予定

(2) 中核市移行へ向けての取り組み

川口市 中核市移行検討委員会の設置

- ・ 中核市移行の認識が低かった理由として、今現在川口市民としての不満度が低く、困らない市民が多いという現状が上げられる

- ・ビジョンを示す事から、寿命の延伸都市への方向付けをする
- ・業務の円滑な運営のために職員の育成支援を埼玉県に依頼する
- ・議会での賛否、各会派での反対は無く全員賛成。
- ・平成26年11月20日より（第1回）平成30年2月16日まで11回の説明会を開催した。
- ・市民に対する意識調査では、聞いたことがある44.0%
知らない 54.5%
移行への意識が低かった。
- ・福祉部の設置、（平成29年4月1日）
- ・ // 監査課 （7課～8課へ）増

(3) 課題

- ・保健所は、県との併設は難しい（空き時間に使用等）
- ・関連施設（保健センター）との一体化を進める
- ・新庁舎建設後は集約する予定としている

※ 中核市への移行は各市課題を抱えての出発で有る良い事例のフロントランナーとなれる様な充実した内容を持つ中核市へと移行出来るのが望ましいと感じた。

山形市

山形市の概要と市長の思い

人口減少、少子高齢化社会に対応し、地方創生を牽引するため平成27年、新たなまち作りの目標として「世界に誇る、健康、安心のまち、健康医療先進都市の実現」を掲げた「山形市発展計画」を策定しました。平成28年11月県庁所在地が隣接する仙台市と包括的な連携協定を締結し、定住人口や交流人口の拡大を図る取り組みを進めた、平成29年10月ユネスコが推進している「創造都市ネットワーク」の映画部門での加盟が認定された。映画をはじめとする山形の多彩で豊かな文化や自然などの地域資産を横断的に結び付け持続可能な都市を目指して行く、着実に推進するための共通施策として、位置付けているのが「中核市への移行」です。中核市の指定要件が人口「30万人以上」から「20万人以上」と緩和され、人口25万人の山形市中核市の要件を満たすことになり、平成31年4月中核市移行に向け準備を行っている。2019(平成31年)市制施行130周年の大きな節目でも有り中核市移行に向けた取り組みを着実に進めて行く。佐藤孝弘山形市長の思いとして発信されている。市長の主張として、市民の運動として盛り上げて行く。健康医療先進都市として保健所行務が第一と考える。

(1)目的

市民福祉の向上

魅力ある町作り

圏域のリーダー的役割り

主な施策としている。

(2) 市の特徴的な施策

- ・ 10項目が上げられているが主な物として下記のような具体的な内容が示されている。
- ・ 事務の工夫や組織編成により市民サービスの向上のための検討を行った。

(3) 県との差を持たせた事業の展開

- ・ 保健所衛生行政の一元化
健康医療先進都市の具元化の推進
- ・ 社会福祉における許認可指導監査体制の構築
- ・ 高齢者福祉と住宅施策の連携強化、住生活基本計画
(2～3年後)
- ・ 大気汚染常時監視システムの構築
大気汚染状況を随時公表する市独自のシステム、
県ホームページにアップ
- ・ 廃棄物関連業務の一元化、又、不適切処理に対しての
一元化
- ・ 市の職員が3年経過する事により業務が進めにくい
改善
- ・ 県警OBを職託として人事交流をする
- ・ 業務の円滑な運営のために職員の育成支援を埼玉県に
依頼（割愛制度）の導入
- ・ プロジェクトチームの主な所掌事項をさだめて実施
市民の健康に関する実態調査及びデータの収集
調査結果及びデータの科学的分析
分析に基づき市民の健康課題の抽出及び検討
課題の解決に向けた政策の立案及び評価

(4) 理念 SUKSK(スクスク)生活を基本として
健康寿命の延伸につなげて行く
充実した施設の設置により健康意識の向上にもつな
がる
多くの課題を抱えながらの移行ではあるがリーダー的
存在の都市を目指し着実に移行して行く

令和元年 9 月 30 日

松本市議会議長 村上 幸雄 様

中核市移行特別委員 古沢明子